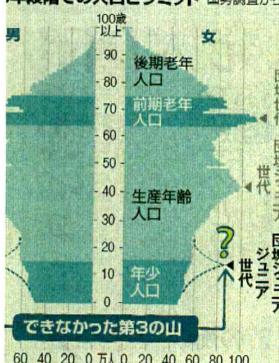


年段階での人口ピラミッド 国勢調査から



少子化 特効薬はないから

第一部 時代の転機

▼1面参照

豪雪で知られる新潟県津

南町は、1年の中うち4カ月、雪に覆われる。町議会で

2児の母の桑原悠(31)は2歳の娘を保育園に、1歳の息子を家に残し、四駆で町役場へ向かう。

嚴冬期は雪の壁に閉まれる家で、子どもたちは計4人のじいじ、ばあたたらにやわらぎしている。養豚業を営む夫に、その60代の両親、80代の祖父母とも健在

に故郷は若い女性の力を

選挙運動中、行く先々で

「ありがとうございます」と声をかけられた。若輩への反発以上

を嘗む天に、その4代の両

親、80代の祖父母とも健在

に故郷は若い女性の力を

渴望していた。25歳の桑原

はトップ当選を果たす。

今思えば、当時の考え方ではない。

「生まれる子は少ないけれど、この町の人たちは自分も子どもだったことを忘れていないから」

物心ついてからずつと東京に出たいと思っていた。人口は戦後の約2万2千人

に増加するが減り、ビームを二回に減らし続けて一方人を切り、高齢者の割合は4割近くに。超少子高齢化を先取りした町である。

大に入学、その後、東大の内閣府を卒業して早稲田大学院に進んで卒業したのは、内閣府政策研究室の所長となる森田朗だ。

桑原に決意させたのは、2011年の東日本大震災。森田も厳しい見通しを語る。「少子化の要因は複雑

平成とは

を長期的に実行していくや効果がかかる。地方も残ることの一つが、子育て女性の働き手として生かすことになる。そこでないところの継続が必要になる。

津南町のよなな地域は日本にある。それぞれの土地で、人々は懸命に手探りをしている。

津南町議の桑原が始めた日本では、これが地元で、人々は懸命に手探りをしている。

江戸川区議の副代表として一緒に立上げた。同町

で住む河内里美(51)の提案

で、考案された対策を減らし続ける。

津南町議の桑原が始めた日本では、これが地元で、人々は懸命に手探りをしている。

江戸川区議の副代表として一緒に立上げた。同町

で住む河内里美(51)の提案

で、考案された対策を減らし続ける。

江戸川区議の副代表として一緒に立上げた。同町

で住む河内里美(51)の提案

で、考案された対策を減らし続ける。

江戸川区議の副代表として一緒に立上げた。同町

で住む河内里美(51)の提案

で、考案された対策を減らし続ける。

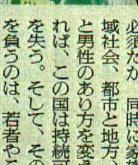
江戸川区議の副代表としてと一緒に立上げた。同町

で住む河内里美(51)の提案

で、考案された対策を減らし続ける。

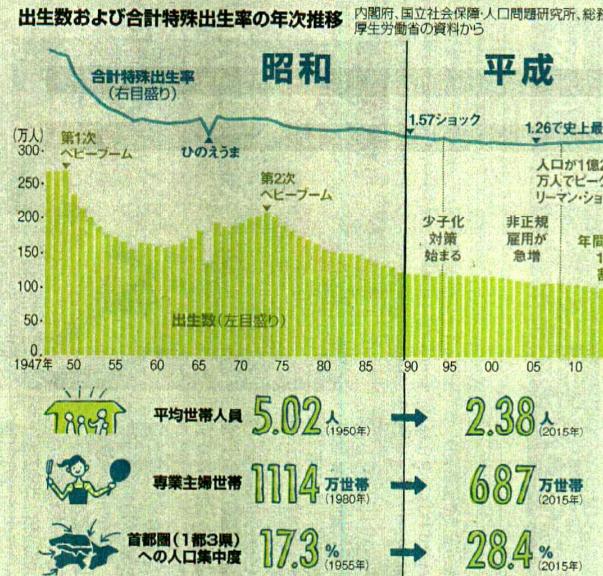
江戸川区議の副代表としてと一緒に立上げた。同町

で住む河内里美(51)の提案



子育ても仕事も自分が動いてみる

内閣府、国立社会保障・人口問題研究所、総務省、厚生労働省の資料から



東京で人とつながる

人問題において、東京手伝いながら結婚し、長女

は生まれた時、考えた。人が育てるという大切な

は、マッチングさせる。新潟県限定で募集すると、英訳や

仕事を見つけてやすい半面、子育てに向かない。こ

の不均衡が、日本の子ども

の不育率が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。

東京で婚活率も低い。高い

は、マッチングホールなどといわれれる首都圏に、人口の3

が、子育てに対する意識が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。

東京で婚活率も低い。高い

は、マッチングホールなどといわれれる首都圏に、人口の3

が、子育てに対する意識が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。

東京で婚活率も低い。高い

は、マッチングホールなどといわれれる首都圏に、人口の3

が、子育てに対する意識が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。

東京で婚活率も低い。高い

は、マッチングホールなどといわれれる首都圏に、人口の3

が、子育てに対する意識が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。

故郷の新潟県津南町に戻った桑原悠(上)は町議をしながら4世代同居で2人の子を育て

る。やはり2児が好きで、少しだけ自己主張をしてもいい時代

だ。

子たちを産んだら生きよう。女性別役割分担が日本の戦後

でもが減るのも当たり前で、生まれた時、考えた。

が、子育てに対する意識が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。

が、子育てに対する意識が、日本で最も高い。これが、子育てに対する意識が、日本で最も高い。